六書原理に基づくロゴデザインシステム

Logo Design System Based on the Six Principles of Chinese Writing

周臻　木本晴夫
Zhou Zhen　Kimoto Haruo
名古屋市立大学大学院　芸術工学研究科

Abstract: Liushu principle(六書原理), the six principles of Chinese character's formation and application, is a kind of logical creative system which reflects the oriental model of thinking and can be regarded as an effective design system which can be used in modern design, This article focuses on the new logo design system based on the Liushu principle with our own design works as examples. We analyzed the six principles, that is, Pictograms, Simple Indicatives, Compound Indicatives, Phono-semantic Compound, Associate Transformation and Borrowing, as design thoughts and formation methods, and composed a new logo design system based on them. Finally, we also pointed that the integrated application of Liushu principle is a smart way in logo design.

Key Words: Liushu Principle, design thoughts, logo design system

1. 研究の背景および目的

現在、デザイン界でトップの地位にある国家、たとえばアメリカ、ヨーロッパの国々、日本などは自国の特徴を持つデザインを形成した。中国のモダン・デザインは 1980 年代にやっと始まったが、現在まだ中国独自のデザイン風格は弱い。中国の文化の特色を持ったデザインの思惟のモードを探して、中国のデザインの風格を作り上げることは中国のデザイナー達が現在深く考えなければならないことである。

筆者らは、六書（りくしょ）原理はこのようなデザイン構想と方法であると考える。六書は、中国文化の独特な造字・造型芸術の方法だけてなく、また有効な視覚表現の手段の一種で、さらに設計思惟にまで昇華したものである。この点から言うと、六書原理はモダン・デザイン、特に視覚表現デザイン分野で効果的なデザインシステムであると考える。本研究は、ロゴデザインを例にして、六書原理に基づく新しいデザインシステムを探求したので報告する。

2. 研究方法

本研究は、六書の各原理、すなわち、象形、指事、形声、会意、転注、仮借のそれぞれの概念、造字方法と造字実例を研究して、その中から得る啓発をデザイン構想とデザイン手法に転化して、自分のデザイン実例と結合して、新しいロゴデザインシステムを構成する。

2. 1. 象形：具体物の形態を表現する

「形に象（かたど）る」という意味で、筆画を組み合わせて物の姿形をかたどることを言う。

(a) 象形をデザイン構想として利用

象形は、形象による思惟の一種で、具体物の形態に対しての帰納と概括である。具体的で、直感的な表現は、ロゴデザインに最も良く使われる。

(b) 象形の構成法から得られる啓発

① 直接に物のイメージを描写して、一つの画像にする。造字例：子、馬

②物体の意義を結合して、関連している物のイメージを借りて物体を表現する。造字例：血。血は皿の形を借りて、その中の小さい円形が血の形象である。

ロゴデザイン例：「小蓮畫室」ロゴ（図 1）で、蓮にとまるとんぼのイメージを借りて蓮のつぼみを表現した。

③ 物事の最も典型的な特徴を把握する。

造字例：羊（物事の局部を表現する）、糸（物事の結構を表現する）、人（正面から物事を表現する）、鹿（側面から物事を表現する）、申（電の意味、仰視する）、田（俯瞰する）。

2. 2. 指事、抽象的な符号を入れる

指事とは、筆画の位置関係により位置・状態・数量などの抽象的な概念を表す。

(a) 指事をデザイン構想として利用

指事は抽象的な概念を造字に取り入れる。現代ロゴデザインの中に、点、線、面、体などの抽象的な要素で構成したロゴは多い。

(b) 指事の構成の手法から得る啓発

①単に抽象的な図形と記号を使って、ロゴを構成する。造字例：上、下、回

ロゴデザイン例：「大阪市水道水キャンペーン」ロゴ（図 2）で、規則的な線と丸を使って、水道水の韻律と美しさを象徴する。

② 具体的な図形と文字を基礎にして、それに抽象的な図形と記号を入れてロゴを構成する。造字例：本、本義は「木の下部（根）」である。刃、刃物の刃を表わしている。

ロゴデザイン例：「魯東大学美術学院」ロゴ（図 3）で、中国の「天眼」という伝説から発想して、直立した目の形は美術家を象徴した。いろいろな色彩の丸形で目の位置を指示し、美術の専門を指示した。

2. 3. 会意：現有の要素を合併して新しい意味を生む

会意は二つ、あるいはそれ以上の既成の象形文字または指事文字を組み合わせ、新しい意味を表す字を作ることである。

(a) 会意をデザイン構想として利用

会意の手法は組合せの概念を取り入れて、現有の物事を利用して合併して、新しい意味を生む。

(b) 会意の構成の手法から得る啓発

①図形組合せの会意：二つあるいは二つ以上の異なっている象形文字で構成する。

造字例：休。人が木に寄りかかってやすむこと。

②漢字のへんとつくりの位置を利用する。造字例：間。2 枚の扉のすきま（位置）を通して、月光が見える。

③主体と器官を表現の会意。造字例：見。漢字「人」の上に、大きな目の図を入れて、視覚器官を強調する。

④同体の会意：2 つあるいは 2 つ以上の同じ象形文字で構成した会意文字。造字例：林。多くの木が林になる。

ロゴデザイン例：「CCTV テレビ番組の第 5 回司会者競争」ロ

図1 小蓮畫室

図2 大阪市水道水キャンペーン

図3 魯東大学美術学院

ゴ（図4）で、競争の多様性と熱意を象徴するのに数個のテレビの形をしているトーキングボックスを使用した。

2.4. 形声：意味を表す符号と発音を表す符号の結合

形声は意味を表す記号（意符）と発音を表す記号（音符）を組み合わせて新しい意味を表す漢字を作る方法である。

(a) 形声をデザイン構想として利用

形声の造字法は音の要素を表意の漢字に取り入れて、大きな意義がある。ロゴデザインの中の，表音の字母あるいは文字の記号は、明確に企業、団体あるいはブランドの名称の読み方をロゴに中に導入して，最も直接的な、効果的な表現方式である。

(b) 形声の構成の手法から得る啓発

① 一形一声：一つの意符と一つの音符を合わせてと構成した。それらの配置の方式は多種多様だが、通常は六種類に分ける。造字例：祥（左形右声）、雌（右形左声）、霖（上形下声）、盂（下形上声）、圓（外形内声）、聞（内形外声）。

ロゴデザイン例：「城市信報」ロゴ(図5)で、漢字「信」の右下の部分の「口」を円に変えて、太陽を象徴するために明るい赤を使用した。この新聞の英語の名前は「City Sun」なので、この部分は意味を示す形旁である。発音を示す声旁としては信の全体の文字である。

②多形と多声：2つあるいはそれ以上の意符と音符を合わせてと構成した。

ロゴデザイン例：「翰林ホテル」ロゴ（図6）で、漢字「翰」と「林」を一緒に結合してそれらを重ねて、新しい「漢字」(二つの声旁がある漢字)に、「八方」の図をはアウトラインとして採用した。(「八方」アウトラインは中国伝統建築で使用される典型的なパターンである)。このロゴは二つの声旁と一つの形旁で構成されている。

2.5. 転注、シリーズデザイン

転注とは、 用字法の一つとする説が有力であるが、定説はない。「転」は転化と考えられ、転化するものが何かによって音転説（韻や音を同じくする）・形転説（形を同じくする）・義転説（意味を同じくする）の三説に大きく分かれる。

転注をデザイン構想として利用

ここでは、転注はデザイン思惟としては同じ構造、機能、本質を持ち、外部の表現が違うシリーズデザインを生成することと考えた。

ロゴデザイン例：「三石会社」のシリーズロゴ(図 7〜8)で、3つの石で構成した漢字「磊」に基づいてデザインした。これらのシリーズロゴでは、グループ会社の全体を強調するために同じ構造を使用した。異なった分野細部だけを変えた。

2.6. 仮借、類似したオブジェクトを借りる

仮借とは、本来その語を表す字がないため、同音あるいは類似した音をもつ字を借りて表記することをいう。「わたし」の意味

図4 CCTVテレビ番組の第5回司会者競争

図5 城市信報

図6 翰林ホテル

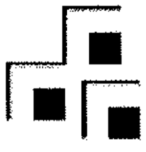

図7 三石建築デザイン会社

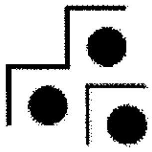

図8 三石美術教育センター

図9 宜寶商業銀行

図10 魯東大学美術学院

に「我」（本義は兵器）、「くる」の意味に「来」（本義は麦）を使うなど。

仮借をデザイン構想として利用

デザイン思惟として、仮借は水平方向の思惟のモードだ。仮借の法則の使用を通じて、私達は論理的思考の束縛を抜け出すことができて、大いにデザイン思惟の広さを拡大できる。

ロゴデザイン例：「宜寶商業銀行」ロゴ（図9）で、ダイヤモンドはそろばんの玉を表す、そろばんは中国の財政のシンボルである。漢字「宜」の中央部分の空白を利用して、そろばんの玉を表現することは仮借の方法である。

2.7. 六書原理の統合応用

六書の2つあるいはそれ以上の原理を一緒に使用する、すなわち、六書原則の統合応用はロゴデザインの需要を満たす効果的な方法である。

ロゴデザイン例：「魯東大学美術学院」ロゴ（図10）で、正方形、円、三角形、線などの形を借りて（仮借)、発音を示すの「魯」字を構成した（形声)。また、幾何学的な形と強い色彩は美術の専門を示している（指事)。仮借、指事、および形声の統合応用である。

3. まとめ

まず、漢字の創造から、中国の人々の造物のスタイルを認識した。これは西洋と中国のデザイン構想を評価するにおいて重要であるのではなく、根本的に中国のモダン・デザインのレベルを高めることに対して非常に重要である。他方では、文化の内包を掘り起こすことと民族の風格を発展することに対して、六書原理に基づくデザインシステムは、中国の文化を進展させるように強力な道具になる。

今後の課題は、六書原理を深く研究して、サイン、グラフィック、プロダクト、環境デザインなどのデザイン領域に応用することを検討する。又は、中国伝統文化の中で、西夏文字、トンパ文字などの他の文字の創作法則をデザイン構想あるいはデザイン方法として利用することを検討する。

参考文献

1. 裘錫圭：文字學概論，商務出版社，1988
2. 梁東漢：漢字の結構と変遷，上海教育出版社，1959
3. Andrew Robinson: *The Story of Writing*, Thames & Hudson Ltd, London, 1995